

港湾懇談会（第5回・最終回）議事概要

日時：平成24年11月26日（月）15：45～17：30

場所：中央合同庁舎3号館 11階特別会議室

主な議事内容：

- ・ 池田委員、内野委員からプレゼンテーションを頂き、意見交換を行った。
- ・ 「座長とりまとめ」として、12月上旬までに、各委員等から出された論点や意見を整理し、ホームページにアップすることにより、公表することとなった。

主なご意見：

- ・ 現在のトレンドを踏まえれば、今後10年程度は日本発着貨物量が全世界のコンテナ貨物量に占める比率は低下するのではないかと。また、海外貨物の日本でのトランシップはほとんど増えないのではないかと。
- ・ そういった状況をどう変えていくかを議論しなければ、わが国の産業のみならず、国が衰退してしまう。
- ・ 釜山港を意識しているように感じられるが、今後、中国発着のトランシップ貨物が直行貨物にシフトしていくと思われ、釜山港は右肩上がりではないのではないかと。
- ・ さまざまな課題・問題があるが、これまでの仕組み、制度、慣習では対応できない状況となっているのではないかと。これまでとは違う思いきった考え方が必要ではないかと。
- ・ わが国の人口減少、社会インフラの老朽化、アジアの経済成長などについての長期的な展望を踏まえた上で、政策形成の議論を行うべき。
- ・ とりまとめにあたっては、平成23年の改正港湾法に則った施策や国際戦略港湾政策等、現在重点的に取り組んでいる施策を着実に進めることが前提であることを明確にするべき。

以上